



【コース案内】

安芸、備後、讃岐、伊予、豊後、周防、長門の7国を見渡せることから、「七国見山」の名がついたといわれている。山頂の南方面には、瀬戸内海や遠く四国の山並みを望める。

途中、西泊公園に展望台があり、ここからの展望も絶景。西泊公園は、今から約1200年前、弘法大師が蒲刈に立ち寄り「山に11面観音を安置すべき霊地である」と告げ、観音が奉安されたといわれている。展望台の横の急登の石段を登った先には、観音堂（西楽寺）があったが2019年4月の山火事で焼失した。

この度、寄付を募り新たな本尊が建立された。

JR 広島前から自家用車に乗り合わせてウォーキングセンター登山口に向かいます。下山後は、岡村島（愛媛県）と大長・御手洗地区を観光します。



【期 日】 2020年12月13日(日)

【集合時間と場所】 9時20分 JR広島(呉線) 駅前 ※ JR広島 8:05 ~ JR広 9:18

※島しょ部で道の狭いところもあります。島に渡す車は最小限にしたいと思います。

広島前の駐車場は、一日最大600円です。安芸灘大橋の通行料金は、片道730円です。

【行 程】 <歩行距離7.0km、歩行時間3:05>

※天候・メンバーの体調等により変更することがあります。

JR 坂駅(9:20~9:30) →安芸灘大橋→ウォーキングセンター登山口(10:05~10:15) ⇒西楽寺(10:40)⇒七国見山 457.0m(昼食11:20~12:00)⇒108m地点(12:40) ⇒物見橋公園展望台(13:30~13:40) ⇒ウォーキングセンター(14:00~14:10) →岡村島(愛媛・14:40) →大長・御手洗(観光15:00~16:00) →JR 広島(16:50)

JR 広島発 (16:36) 17:13 or 17:36 (快速)

【必要装備】

ハイキングに適した服装・装備、昼食・行動食、飲物、雨具、地図(配布)、ヘッドランプ、保険証、コンパス(磁石)、マスク、消毒用アルコール・ウェットティッシュほか

【リーダー・問合せ先】

CL 佐々木英幸(090-8363-1001) Eメールで hidesasaki256@gmail.com

*参加申込みは、12月4日(金)までをお願いします。その後配車表を作成します。

申込の際に ①JR等を利用して広駅に集合、②自家用車を提供して搬送可能な方、③自家用車で単独参加を希望される方の別をお知らせください。

12月11日(金) 予定の定例集会で最終確認をします。

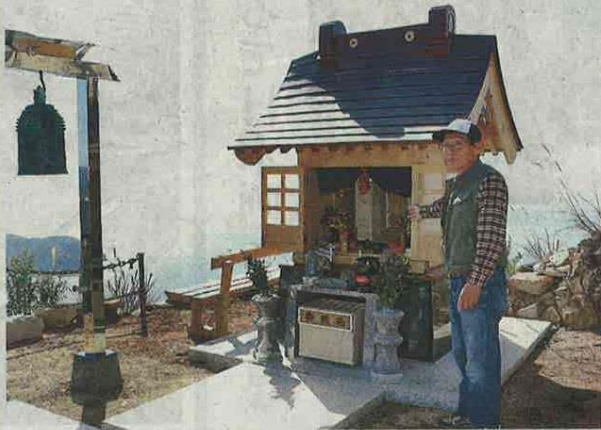
【雨天時の対応について】

雨天などで予定変更の場合は、前日の18:00に決定してEメールでお知らせします。



2019年4月の山林火災で焼失した呉市蒲刈町大浦の「西泊観音」のお堂を、地域の住民が協力して再建した。今年3月から寄付を募り、以前と同じ七国見山(457m)の中腹に建立。新たな本尊も安置した。住民は「地域を長年見守ってきた観音様が復活した」と喜んでいる。(杉原和磨)

住民 寄付募り 新たな本尊設置



観音堂は高さ約2・5m、幅、奥行きはいずれも約1・2m。地元の大浦自治会が中心となり、市内外から集まった寄付約1千万円で建立した。焼け残った釣鐘はそのまま使用。本尊の十一面観音菩薩立像も焼失したため、新たに用意した。木彫りで高さ83cm。

①再建を果たした西泊観音のお堂を説明する榎本会長
②山林火災で焼失した直後のお堂。焼け残った鐘が左側に見える(2019年4月)



山火事で焼失 観音堂を再建

呉の蒲刈七国見山の中腹

趣味で仏像を彫るユカラス店主の岡野専之助さん(89)屋道市に協力を依頼し、無償で寄進を受けた。同自治会の榎本良金会長(71)は「皆さんの厚意でなんとか再建できた。感謝の気持ちでいっぱい」と笑顔を見せる。

西泊観音のお堂は、同地(株)要源石材店 082-432-2361

を訪れた弘法大師のお告げで、9世紀初めに創建したと伝わる。海上からも見える場所であり、船乗りや漁師たちに厚く信仰されてきた。通常は12年に1度、午年の4月に1日だけ開帳している。

19年4月に発生した七国見山の火災は1週間にもわたる燃え続け、森林計11haを焼失した。けが人や住宅などへの被害はなかったが、観音堂は釣鐘だけを残して焼失。子どもたちのから75年以上お参りしてきたという近くの高畑さわこさん(87)は「焼けたと聞いた時は声が出ないほど悲しかった」と振り返る。

風待ちの港 御手洗



黄色の線は、沖乗り航路。伊予津和地島から斎灘を一気に渡、御手洗港へ、そして伊予大三島と伯方島にはさまれた鼻栗瀬戸を抜け、岩城島、弓削島を経て鞆ノ浦へ向かうものであった。

県鳥 “あび”

「あび」はイカナゴが好物で、あびの群れは、イカナゴを追い、その群れを取り囲み、円陣を作りながら、水面であるいは水中で捕食する。



追われるイカナゴは水中深く沈下し、狂ったように乱舞する。イカナゴを捕食する鯛、スズキは、このように色めきイカナゴを追い求める。イカナゴが激しく上下することにより、鯛、スズキの食いを誘発させるのである。この理を利用した一本釣りを、「あび漁」と呼んでいる。